

出題意図・解答のポイント

研究科	商学研究科
課程	博士課程前期課程
入試種別	一般入学試験
筆記試験科目	専門科目

専門科目試験の出題意図は、本研究科のアドミッション・ポリシーに掲げる人材として成長するために必要となる、基礎的な資質と学問的潜在力を多面的に評価することにある。すなわち「高度な知識を備えて独創的な研究を行うことができる研究者」、もしくは「複雑・多様化するビジネスの諸問題を専門知識と実務能力をもって解決することができる高度の専門的職業人」として育成するに足る知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な修学態度を備えているかを判断することが、出題の基本方針である。

試験時間は90分の論述形式であり、これにより、受験者が選択した専門分野（商学、経営学、経済学、会計学、統計学）における学士課程レベルの基礎的な知識・技能の習熟度を測るとともに、それらの知識を応用して論理的に思考し、説得力をもって表現する能力を総合的に問う。

具体的には、以下の能力を評価する。

基礎学力：各専門分野の基本的な概念や理論を正確に理解しているか。

論理的思考力：提示されたテーマや課題の本質を捉え、筋道を立てて考察し、多角的に分析できるか。

応用力：学術的な知見を、具体的な事象と関連付けて考察し、自らの見解を深め、展開できるか。

表現力：自身の思考プロセスと結論を、明晰かつ論理的な文章で的確に表現できるか。

質の高い解答を作成するためには、以下の点が重要となる。

(1) 設問の意図の正確な理解

各設問で何が問われているのか（説明、比較、論評、私見の展開など）を正確に把握することが不可欠である。解答すべき中心的な問いから逸脱しないように留意すること。

(2) 論理的で明確な構成

解答全体の構成（序論・本論・結論）を意識すること。序論で問題提起と本稿の論点を示し、本論で具体的な根拠（学術的理論や事例）を挙げて多角的に論証し、結論で全体の議論を要約して自らの主張を明確に述べるのが求められる。

(3) 専門知識の的確な活用

学士課程で修得した基本的な専門用語や概念、理論、フレームワークを正確かつ効果的に使用すること。知識を羅列するだけでなく、それらが設問のテーマを分析・考察する上でどのように有効であるかを示す必要がある。

(4) 多角的・複眼的な視点

単一の視点や考え方に固執せず、複数の理論を比較検討したり、異なる立場からの見方を考察に加えたりするなど、多角的・複眼的な視点から論を展開すること。

(5) 説得力のある根拠と結論

自らの主張を裏付けるために、学術的な理論や研究成果、あるいは具体的な事象を根拠として適切に引用・活用すること。客観性と説得力のある議論を経て、一貫性のある結論を導き出すこと。

出題意図・解答のポイント

研究科	商学研究科
課程	博士課程前期課程
入試種別	一般入学試験
筆記試験科目	外国語科目(英語)

英語試験の出題意図は、本研究科のアドミッション・ポリシーに掲げる人材として成長するために必要となる、国際的な視野・高度な英語運用能力・専門的知見との統合的活用力を多面的に評価することにある。すなわち、「高度な知識を備えて国際的に研究・実務を展開できる研究者・専門職業人」として育成するに足る、主に読解力・表現力を備えているかを判断することが、出題の基本方針である。

試験は主に読解力を問う問題と、主に表現力を問う問題がある。前者の試験では、商学に関連する比較的一般的な英文資料を題材とし、その英文の文法・語彙に関する理解力と、内容に関する理解力を測ることによって、主にビジネス英語の読解力・受信力を評価する。後者の試験では、ビジネスにおいて生じうる状況を解決するための達意のビジネス通信文を書くことを求め、主にビジネス英語の表現力・発信力を評価する。

具体的には、以下の能力を総合的に評価する。

- ・英文構造把握力：与えられた英文の、主に文法的・語彙的構造を正確に把握する力。
- ・英文内容読解力：与えられた英文を正確に読み取り、論点・論理発展構造・キーワード・キーセンテンスなどを把握する力。
- ・応用力：自らの専門知識・関心分野などから得られる洞察力に基づき、ビジネス上の課題を解決するための考察結果を英文として表現する力。
- ・表現力：自身の思考結果を、ビジネス英語メッセージに求められる correctness (正確さ)、clarity (明確さ)、conciseness (簡潔さ) を守りながら、達意の英文を書く力。

質の高い解答を作成するためには、以下の点が重要となる。

- ・設問の意図の正確な理解
設問が求める内容(分析、比較、対比、変化、発展性、首尾一貫性など)を正確に把握し、論点から逸脱しないこと。
- ・英語の正確な読解と活用
英語の専門語彙・構文を正確に理解し、内容を正確に取り出すこと。
- ・論理的で明確な構成
解答全体の論理的構成(序論・本論・結論)を意識し、導入、状況の説明、中心点の表現、結論をビジネスメッセージに明確に表現すること。
- ・説得力のある根拠と結論
主張を支えるために論理性のある説得内容を表現するとともに、ビジネスの場で必要とされる品位を言語化すること。

出題意図・解答のポイント

研究科	商学研究科
課程	博士課程前期課程
入試種別	一般入学試験
筆記試験科目	税制論

税制論の試験の出題における基本方針は、本研究科のアドミッション・ポリシーに掲げる人材像、すなわち「高度な知識を備えて独創的な研究を行うことができる研究者」または「複雑・多様化するビジネスの諸問題を専門知識と実務能力をもって解決することができる高度の専門的職業人」に必要とされる、租税に関する基礎的素養を有しているかを総合的に評価することにある。

試験は論述形式で、試験時間は90分である。学士課程レベルの租税法・租税論の基礎知識の習熟度を測るとともに、その知識を応用して課題を論理的に分析し、自らの言葉で説得力をもって「論じる」能力を問うことにより、本研究科での租税法・租税論の研究を遂行するために必要な素養を有しているかを判断する。したがって、単なる制度や用語の説明にとどまらず、学術的知見を踏まえて自らの言葉で論理的に論じることが重要である。

具体的には、以下の能力を評価する。

- ・基礎学力：学士課程レベルの租税法・租税論に関する基本的な概念や理論を正確に理解し、かつ、専門用語を適切に使用できているか。
- ・論理的思考力：租税に関する具体的な制度や政策課題を的確に把握し、論点を整理したうえで、一貫した論理展開ができているか。
- ・応用力：学術的知見を、現行の租税制度や具体的事例と関連付け、独自の視点をもって分析・展開できるか。
- ・表現力：論述の構造が明確で要点が整理され、専門用語を含めて適切かつ説得力のある文章で記され、全体として一貫性があるか。

質の高い解答を作成するためには、以下の点が重要となる。

- (1) 設問の意図の正確な理解：各設問で何が問われているのかを正確に読み取り、設問の趣旨に沿った論述を行う。
- (2) 論理的で明確な構成：解答全体の構成（序論・本論・結論）を意識し、序論で論点と論述の方向性を提示し、本論で具体的な根拠（学術的理論や判例）を挙げて多角的に論証し、結論で全体の議論を要約して自らの主張を明確に述べる。
- (3) 専門知識の的確な活用：学士課程レベルの租税法・租税論の基本的な専門用語や概念、理論、フレームワークを正確かつ適切に使用し、知識を羅列するだけでなく、それらが設問のテーマを分析・考察する上でどのように有効であるかを示す。
- (4) 多角的・複眼的な視点：単一の立場に偏らず、複数の学説や政策的観点を比較検討し、異なる視点を踏まえて多角的・複眼的に論を展開する。
- (5) 説得力のある根拠と結論：自らの主張を裏付けるために、学術的理論や制度比較、判例、政策事例等を根拠として適切に引用・活用し、客観性と一貫性のある結論を導き出す。

出題意図・解答のポイント

研究科	商学研究科
課程	博士課程前期課程
入試種別	外国人留学生入学試験
筆記試験科目	専門科目

専門科目試験の出題意図は、本研究科のアドミッション・ポリシーに掲げる人材として成長するために必要となる、基礎的な資質と学問的潜在力を多面的に評価することにある。すなわち「高度な知識を備えて独創的な研究を行うことができる研究者」、もしくは「複雑・多様化するビジネスの諸問題を専門知識と実務能力をもって解決することができる高度の専門的職業人」として育成するに足る知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な修学態度を備えているかを判断することが、出題の基本方針である。

試験時間は90分の論述形式であり、これにより、受験者が選択した専門分野（商学、経営学、経済学、会計学、統計学）における学士課程レベルの基礎的な知識・技能の習熟度を測るとともに、それらの知識を応用して論理的に思考し、説得力をもって表現する能力を総合的に問う。

具体的には、以下の能力を評価する。

基礎学力：各専門分野の基本的な概念や理論を正確に理解しているか。

論理的思考力：提示されたテーマや課題の本質を捉え、筋道を立てて考察し、多角的に分析できるか。

応用力：学術的な知見を、具体的な事象と関連付けて考察し、自らの見解を深め、展開できるか。

表現力：自身の思考プロセスと結論を、明晰かつ論理的な文章で的確に表現できるか。

質の高い解答を作成するためには、以下の点が重要となる。

(1) 設問の意図の正確な理解

各設問で何が問われているのか（説明、比較、論評、私見の展開など）を正確に把握することが不可欠である。解答すべき中心的な問いから逸脱しないように留意すること。

(2) 論理的で明確な構成

解答全体の構成（序論・本論・結論）を意識すること。序論で問題提起と本稿の論点を示し、本論で具体的な根拠（学術的理論や事例）を挙げて多角的に論証し、結論で全体の議論を要約して自らの主張を明確に述べるのが求められる。

(3) 専門知識の的確な活用

学士課程で修得した基本的な専門用語や概念、理論、フレームワークを正確かつ効果的に使用すること。知識を羅列するだけでなく、それらが設問のテーマを分析・考察する上でどのように有効であるかを示す必要がある。

(4) 多角的・複眼的な視点

単一の視点や考え方に固執せず、複数の理論を比較検討したり、異なる立場からの見方を考察に加えたりするなど、多角的・複眼的な視点から論を展開すること。

(5) 説得力のある根拠と結論

自らの主張を裏付けるために、学術的な理論や研究成果、あるいは具体的な事象を根拠として適切に引用・活用すること。客観性と説得力のある議論を経て、一貫性のある結論を導き出すこと。

出題意図・解答のポイント

研究科	商学研究科
課程	博士課程前期課程
入試種別	外国人留学生入学試験
筆記試験科目	外国語科目(英語)

英語試験の出題意図は、本研究科のアドミッション・ポリシーに掲げる人材として成長するために必要となる、国際的な視野・高度な英語運用能力・専門的知見との統合的活用力を多面的に評価することにある。すなわち、「高度な知識を備えて国際的に研究・実務を展開できる研究者・専門職業人」として育成するに足る、主に読解力・表現力を備えているかを判断することが、出題の基本方針である。

試験は主に読解力を問う問題と、主に表現力を問う問題がある。前者の試験では、商学に関連する比較的一般的な英文資料を題材とし、その英文の文法・語彙に関する理解力と、内容に関する理解力を測ることによって、主にビジネス英語の読解力・受信力を評価する。後者の試験では、ビジネスにおいて生じうる状況を解決するための達意のビジネス通信文を書くことを求め、主にビジネス英語の表現力・発信力を評価する。

具体的には、以下の能力を総合的に評価する。

- ・英文構造把握力：与えられた英文の、主に文法的・語彙的構造を正確に把握する力。
- ・英文内容読解力：与えられた英文を正確に読み取り、論点・論理発展構造・キーワード・キーセンテンスなどを把握する力。
- ・応用力：自らの専門知識・関心分野などから得られる洞察力に基づき、ビジネス上の課題を解決するための考察結果を英文として表現する力。
- ・表現力：自身の思考結果を、ビジネス英語メッセージに求められる correctness (正確さ)、clarity (明確さ)、conciseness (簡潔さ) を守りながら、達意の英文を書く力。

質の高い解答を作成するためには、以下の点が重要となる。

- ・設問の意図の正確な理解
設問が求める内容(分析、比較、対比、変化、発展性、首尾一貫性など)を正確に把握し、論点から逸脱しないこと。
- ・英語の正確な読解と活用
英語の専門語彙・構文を正確に理解し、内容を正確に取り出すこと。
- ・論理的で明確な構成
解答全体の論理的構成(序論・本論・結論)を意識し、導入、状況の説明、中心点の表現、結論をビジネスメッセージに明確に表現すること。
- ・説得力のある根拠と結論
主張を支えるために論理性のある説得内容を表現するとともに、ビジネスの場で必要とされる品位を言語化すること。

出題意図・解答のポイント

研究科	商学研究科
課程	博士課程前期課程
入試種別	外国人留学生入学試験
筆記試験科目	税制論

税制論の試験の出題における基本方針は、本研究科のアドミッション・ポリシーに掲げる人材像、すなわち「高度な知識を備えて独創的な研究を行うことができる研究者」または「複雑・多様化するビジネスの諸問題を専門知識と実務能力をもって解決することができる高度の専門的職業人」に必要とされる、租税に関する基礎的素養を有しているかを総合的に評価することにある。

試験は論述形式で、試験時間は90分である。学士課程レベルの租税法・租税論の基礎知識の習熟度を測るとともに、その知識を応用して課題を論理的に分析し、自らの言葉で説得力をもって「論じる」能力を問うことにより、本研究科での租税法・租税論の研究を遂行するために必要な素養を有しているかを判断する。したがって、単なる制度や用語の説明にとどまらず、学術的知見を踏まえて自らの言葉で論理的に論じることが重要である。

具体的には、以下の能力を評価する。

- ・基礎学力：学士課程レベルの租税法・租税論に関する基本的な概念や理論を正確に理解し、かつ、専門用語を適切に使用できているか。
- ・論理的思考力：租税に関する具体的な制度や政策課題を的確に把握し、論点を整理したうえで、一貫した論理展開ができているか。
- ・応用力：学術的知見を、現行の租税制度や具体的事例と関連付け、独自の視点をもって分析・展開できるか。
- ・表現力：論述の構造が明確で要点が整理され、専門用語を含めて適切かつ説得力のある文章で記され、全体として一貫性があるか。

質の高い解答を作成するためには、以下の点が重要となる。

- (1) 設問の意図の正確な理解：各設問で何が問われているのかを正確に読み取り、設問の趣旨に沿った論述を行う。
- (2) 論理的で明確な構成：解答全体の構成（序論・本論・結論）を意識し、序論で論点と論述の方向性を提示し、本論で具体的な根拠（学術的理論や判例）を挙げて多角的に論証し、結論で全体の議論を要約して自らの主張を明確に述べる。
- (3) 専門知識の的確な活用：学士課程レベルの租税法・租税論の基本的な専門用語や概念、理論、フレームワークを正確かつ適切に使用し、知識を羅列するだけでなく、それらが設問のテーマを分析・考察する上でどのように有効であるかを示す。
- (4) 多角的・複眼的な視点：単一の立場に偏らず、複数の学説や政策的観点を比較検討し、異なる視点を踏まえて多角的・複眼的に論を展開する。
- (5) 説得力のある根拠と結論：自らの主張を裏付けるために、学術的理論や制度比較、判例、政策事例等を根拠として適切に引用・活用し、客観性と一貫性のある結論を導き出す。

出題意図・解答のポイント

研究科	商学研究科
課程	博士課程前期課程
入試種別	社会人入学試験
筆記試験科目	専門科目

専門科目試験の出題意図は、本研究科のアドミッション・ポリシーに掲げる人材として成長するために必要となる、基礎的な資質と学問的潜在力を多面的に評価することにある。すなわち「高度な知識を備えて独創的な研究を行うことができる研究者」、もしくは「複雑・多様化するビジネスの諸問題を専門知識と実務能力をもって解決することができる高度の専門的職業人」として育成するに足る知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な修学態度を備えているかを判断することが、出題の基本方針である。

試験時間は90分の論述形式であり、これにより、受験者が選択した専門分野（商学、経営学、経済学、会計学、統計学）における学士課程レベルの基礎的な知識・技能の習熟度を測るとともに、それらの知識を応用して論理的に思考し、説得力をもって表現する能力を総合的に問う。

具体的には、以下の能力を評価する。

基礎学力：各専門分野の基本的な概念や理論を正確に理解しているか。

論理的思考力：提示されたテーマや課題の本質を捉え、筋道を立てて考察し、多角的に分析できるか。

応用力：学術的な知見を、具体的な事象と関連付けて考察し、自らの見解を深め、展開できるか。

表現力：自身の思考プロセスと結論を、明晰かつ論理的な文章で的確に表現できるか。

質の高い解答を作成するためには、以下の点が重要となる。

(1) 設問の意図の正確な理解

各設問で何が問われているのか（説明、比較、論評、私見の展開など）を正確に把握することが不可欠である。解答すべき中心的な問いから逸脱しないように留意すること。

(2) 論理的で明確な構成

解答全体の構成（序論・本論・結論）を意識すること。序論で問題提起と本稿の論点を示し、本論で具体的な根拠（学術的理論や事例）を挙げて多角的に論証し、結論で全体の議論を要約して自らの主張を明確に述べるのが求められる。

(3) 専門知識の的確な活用

学士課程で修得した基本的な専門用語や概念、理論、フレームワークを正確かつ効果的に使用すること。知識を羅列するだけでなく、それらが設問のテーマを分析・考察する上でどのように有効であるかを示す必要がある。

(4) 多角的・複眼的な視点

単一の視点や考え方に固執せず、複数の理論を比較検討したり、異なる立場からの見方を考察に加えたりするなど、多角的・複眼的な視点から論を展開すること。

(5) 説得力のある根拠と結論

自らの主張を裏付けるために、学術的な理論や研究成果、あるいは具体的な事象を根拠として適切に引用・活用すること。客観性と説得力のある議論を経て、一貫性のある結論を導き出すこと。

出題意図・解答のポイント

研究科	商学研究科
課程	博士課程前期課程
入試種別	社会人入学試験
筆記試験科目	税制論

税制論の試験の出題における基本方針は、本研究科のアドミッション・ポリシーに掲げる人材像、すなわち「高度な知識を備えて独創的な研究を行うことができる研究者」または「複雑・多様化するビジネスの諸問題を専門知識と実務能力をもって解決することができる高度の専門的職業人」に必要とされる、租税に関する基礎的素養を有しているかを総合的に評価することにある。

試験は論述形式で、試験時間は90分である。学士課程レベルの租税法・租税論の基礎知識の習熟度を測るとともに、その知識を応用して課題を論理的に分析し、自らの言葉で説得力をもって「論じる」能力を問うことにより、本研究科での租税法・租税論の研究を遂行するために必要な素養を有しているかを判断する。したがって、単なる制度や用語の説明にとどまらず、学術的知見を踏まえて自らの言葉で論理的に論じることが重要である。

具体的には、以下の能力を評価する。

- ・基礎学力：学士課程レベルの租税法・租税論に関する基本的な概念や理論を正確に理解し、かつ、専門用語を適切に使用できているか。
- ・論理的思考力：租税に関する具体的な制度や政策課題を的確に把握し、論点を整理したうえで、一貫した論理展開ができているか。
- ・応用力：学術的知見を、現行の租税制度や具体的事例と関連付け、独自の視点をもって分析・展開できるか。
- ・表現力：論述の構造が明確で要点が整理され、専門用語を含めて適切かつ説得力のある文章で記され、全体として一貫性があるか。

質の高い解答を作成するためには、以下の点が重要となる。

- (1) 設問の意図の正確な理解：各設問で何が問われているのかを正確に読み取り、設問の趣旨に沿った論述を行う。
- (2) 論理的で明確な構成：解答全体の構成（序論・本論・結論）を意識し、序論で論点と論述の方向性を提示し、本論で具体的な根拠（学術的理論や判例）を挙げて多角的に論証し、結論で全体の議論を要約して自らの主張を明確に述べる。
- (3) 専門知識の的確な活用：学士課程レベルの租税法・租税論の基本的な専門用語や概念、理論、フレームワークを正確かつ適切に使用し、知識を羅列するだけでなく、それらが設問のテーマを分析・考察する上でどのように有効であるかを示す。
- (4) 多角的・複眼的な視点：単一の立場に偏らず、複数の学説や政策的観点を比較検討し、異なる視点を踏まえて多角的・複眼的に論を展開する。
- (5) 説得力のある根拠と結論：自らの主張を裏付けるために、学術的理論や制度比較、判例、政策事例等を根拠として適切に引用・活用し、客観性と一貫性のある結論を導き出す。

出題意図・解答のポイント

研究科	商学研究科
課程	博士課程後期課程
入試種別	一般入学試験
筆記試験科目	専門科目
<p>博士課程後期課程は、高度な専門知識を基盤に、商学分野において独創的な研究を主体的に遂行し、学術の発展に寄与できる「自立した研究者」を育成することを目的としている。本専門科目試験は、そのために不可欠な資質・能力を受験者が有しているかを評価するために実施される。具体的には、博士前期課程（修士課程）修了レベルの高度な専門知識に加え、アドミッション・ポリシーに掲げる「問題解決能力、リーダーシップ能力、論理的・批判的思考力」、とりわけ研究者として必須の「論理的・批判的思考力」と、自らの研究を切り拓く「独創性の萌芽」を測ることを重視している。</p> <p>90分の論述を通じて、以下の点を総合的に評価するため、解答を作成する上でも留意すること。</p> <p>(1) 専門分野における高度な知識と体系的理解</p> <p>自らが研究対象とする専門領域について、その学術的背景、主要な先行研究や学説の系譜、現在の研究動向を的確に把握し、体系的に理解しているか。修士論文執筆レベルの深い専門知識が求められる。</p> <p>(2) 論理的・批判的思考力（クリティカル・シンキング）</p> <p>既存の学説や研究成果を無批判に受け入れるのではなく、その理論的貢献と同時に、残された課題や論理的な限界点を客観的に分析・評価できるか。複数の学説を比較・対照し、その本質的な差異や共通点を鋭く洞察する能力を問う。</p> <p>(3) 研究構想力と独創性の萌芽</p> <p>先行研究の批判的検討を通じて、当該分野における未解明な研究課題（リサーチ・ギャップ）を的確に認識できるか。さらに、その課題を解明するための独創的なリサーチ・クエスチョンを設定し、今後の博士論文研究につながる論理的で説得力のある研究構想の輪郭を示せるか。</p> <p>(4) 高度な学術的表現力</p> <p>自らの複雑な思考プロセスや主張を、学術論文に求められる水準の、厳密かつ明晰な文章で構成し、表現する能力を有しているか。</p>	

出題意図・解答のポイント

研究科	商学研究科
課程	博士課程後期課程
入試種別	一般入学試験
筆記試験科目	外国語科目(英語)

本試験は、博士課程後期課程において求められる英語運用能力のうち、学術研究を遂行するために必要な英語文献からの情報収集力を有しているかを評価することを目的とする。特に、英語による学術的文章を精読する力、または、そこから得られた内容をもとに論理的に思考・要約・考察する力に重点を置いて出題する。

出題素材としては、主に人文社会科学分野に関連する現代的かつ学術的なトピックを扱った論文の一部を使用する。受験者はこれらの英文を読み取り、以下の観点から主に英文を和訳する形式で応答することが求められる。

具体的には、以下の能力を総合的に評価する。

- ・英文構造把握力：文法的・語彙的観点から英文を正確に理解する力。
- ・英文内容読解力：論点、論理展開、キーワード、キーセンテンスなどを的確に把握する力。

質の高い解答を作成するためには、以下の点が重要となる。

- ・英文の精読力および理解の深さ

英文における主張・構成・論理展開を正確に把握し、全体像と細部の関係を的確に理解する力を問う。また、内容に含まれる学術的または時事的な語彙や表現を適切に解釈できているかも評価対象とする。

- ・要約・論述力

複雑な内容を整理し、主要なポイントを明確かつ簡潔に要約できるかを評価する。また、読み取った内容を主に日本語で論理的に再構成し、適切に記述できるかを重視する。

- ・国際的視座および研究的視点の有無

与えられた英文素材に対し、国際的な視野や学術的背景を踏まえた理解ができているかを問う。

出題意図・解答のポイント

研究科	商学研究科
課程	博士課程後期課程
入試種別	外国人留学生入学試験
筆記試験科目	専門科目
<p>博士課程後期課程は、高度な専門知識を基盤に、商学分野において独創的な研究を主体的に遂行し、学術の発展に寄与できる「自立した研究者」を育成することを目的としている。本専門科目試験は、そのために不可欠な資質・能力を受験者が有しているかを評価するために実施される。具体的には、博士前期課程(修士課程)修了レベルの高度な専門知識に加え、アドミッション・ポリシーに掲げる「問題解決能力、リーダーシップ能力、論理的・批判的思考力」、とりわけ研究者として必須の「論理的・批判的思考力」と、自らの研究を切り拓く「独創性の萌芽」を測ることを重視している。</p> <p>90分の論述を通じて、以下の点を総合的に評価するため、解答を作成する上でも留意すること。</p> <p>(1) 専門分野における高度な知識と体系的理解</p> <p>自らが研究対象とする専門領域について、その学術的背景、主要な先行研究や学説の系譜、現在の研究動向を的確に把握し、体系的に理解しているか。修士論文執筆レベルの深い専門知識が求められる。</p> <p>(2) 論理的・批判的思考力(クリティカル・シンキング)</p> <p>既存の学説や研究成果を無批判に受け入れるのではなく、その理論的貢献と同時に、残された課題や論理的な限界点を客観的に分析・評価できるか。複数の学説を比較・対照し、その本質的な差異や共通点を鋭く洞察する能力を問う。</p> <p>(3) 研究構想力と独創性の萌芽</p> <p>先行研究の批判的検討を通じて、当該分野における未解明な研究課題(リサーチ・ギャップ)を的確に認識できるか。さらに、その課題を解明するための独創的なリサーチ・クエスチョンを設定し、今後の博士論文研究につながる論理的で説得力のある研究構想の輪郭を示せるか。</p> <p>(4) 高度な学術的表現力</p> <p>自らの複雑な思考プロセスや主張を、学術論文に求められる水準の、厳密かつ明晰な文章で構成し、表現する能力を有しているか。</p>	

出題意図・解答のポイント

研究科	商学研究科
課程	博士課程後期課程
入試種別	外国人留学生入学試験
筆記試験科目	外国語科目(英語)

本試験は、博士課程後期課程において求められる英語運用能力のうち、学術研究を遂行するために必要な英語文献からの情報収集力を有しているかを評価することを目的とする。特に、英語による学術的文章を精読する力、または、そこから得られた内容をもとに論理的に思考・要約・考察する力に重点を置いて出題する。

出題素材としては、主に人文社会科学分野に関連する現代的かつ学術的なトピックを扱った論文の一部を使用する。受験者はこれらの英文を読み取り、以下の観点から主に英文を和訳する形式で応答することが求められる。

具体的には、以下の能力を総合的に評価する。

- ・英文構造把握力：文法的・語彙的観点から英文を正確に理解する力。
- ・英文内容読解力：論点、論理展開、キーワード、キーセンテンスなどを的確に把握する力。

質の高い解答を作成するためには、以下の点が重要となる。

- ・英文の精読力および理解の深さ

英文における主張・構成・論理展開を正確に把握し、全体像と細部の関係を的確に理解する力を問う。また、内容に含まれる学術的または時事的な語彙や表現を適切に解釈できているかも評価対象とする。

- ・要約・論述力

複雑な内容を整理し、主要なポイントを明確かつ簡潔に要約できるかを評価する。また、読み取った内容を主に日本語で論理的に再構成し、適切に記述できるかを重視する。

- ・国際的視座および研究的視点の有無

与えられた英文素材に対し、国際的な視野や学術的背景を踏まえた理解ができているかを問う。